

二柱の天照大神と饒速日尊

「浮島の怪猫」の謎に迫る！（中編―十）

大阪中央分苑 出口 恒

聖師と大日本帝国との戦い

います。

『靈界物語』で近代日本を描
写したと思われる箇所のひとつ

明治・昭和にあつて、もう見

えなくなつたもの。それは大日

に第六十七巻第六章の、浮島の

本帝国といつてよいでしょう。

怪猫かいびょう」があります『新月の光』

日高岩は日高山にあり、大黒

は、「日高岩」『靈界物語』第六

岩、過去のアケハル（明治）の

十七巻第六章、浮島の怪猫」の

岩でしょう。「日高岩の所が出

ところが出てくる、昭和十九年

てくる」と示されたことは、「浮

十一月」と記載されています。

島の怪猫」の章は、昭和十九年

日高山とはハルの湖で有名な山

十一月以降、太平洋戦争終末を

であり『靈界物語』七十一巻十

含む予言の章であることを示し

九章では、千草の高姫に「ハル

ています。この章で出てくる主

の湖で有名な日高山はモウ見え

要な宣伝使は、梅公別（梅公）で

なくなりましてし、真帆片帆の

すが、梅公とは、月の国の大黒

行き交いも昔とは余ほど淋しく

主調伏に出陣する梅彦（照国

なつたようです。」と語らせて

別）の三従者の一人。元来は大

神より特に選ばれた神かん
柱はしらにして無限の秘密
を蔵し、神妙秘門の鍵
を授かり宇宙間一の怖おそ
れるものなき大神人。
聖地エルサレムの天使
である言靈別の化身で
あり、素盞鳴尊すさのあのみことの分



図一 八月九日
長崎への原爆投下

霊、少彦名神すくなひこのかみ（神）。そして大

黒主とは八岐大蛇やまのりゅうを示します。

型の思想では、「アケハルの岩」

に相応する存在が大本の世界で

もあつたはずで。

少彦名神すくなひこのかみがイエスキリスト

としてユダヤに降誕し、天国の

福音を宣伝、その後身、言依別ことよりわかれ

命のみことが高熊山に黄金こがねの玉を秘祭

した。端的に言えば、梅公とは

出口王仁三郎聖師そのものを示

すのでしよう。その聖師の眼前

で、大黒岩・アケハルの岩が沈

んだ、日本が降伏したというこ

とは、聖師と大日本帝国との戦

いの中で、大本教を弾圧した最

終的な大日本帝国に対しての聖

師の勝利を意味すると考えま

す。この論者のテーマである

「王仁は饒速日だ！」という聖

師の言葉から浮島の怪猫をこ

に掲載することとします。

ハルの湖はどこか

さて「浮島の怪猫」で一番悩

ましい問題は、ハルの湖はどこ

にあるかということです。ハル

の湖は日本にあり、あるいは日

本そのもので、その根拠は次の通りです。

「この湖ハルの湖水は高原地帯の有名なる大湖水にして東西二百里、南北三百里と称えられてゐる。湖中には無数の大小島が星のごとくに配置され、各島嶼いづれもパインの木が密生して世界一の風景と称へられてゐる」『思想の波』『靈界物語』六十七巻第二章）。

パイン・松の木が密生している湖、ハルの湖とは日本の湖であることがわかります。「東風吹かば匂い起こせよ梅の花、あるじなしとて春な忘れそ」という菅原道真の歌では、「東」は「春」となります。

「九回読んだら大分判つただろう」『靈界物語』は皆、日本のことである。アメリカや印度のことにしてゐるが、皆日本の事

である。……印度に東西百里南北二百里というような湖はないし、茶の湯をしたりはしない。

……今はワックスで、和国の主でワックスや。強きを助け弱気をくじくのや。いまは金盞を叩かれてゐるところだ。そんなこと判ろうものなら大事件になるから判らぬように書いてある」『靈界物語は皆日本の事』（昭和二十一年三月二十二日午前九時）『新月の光』下巻）。

「ハルマゲドンのハルとは日本の事である」（昭和十九年）（「ハルマゲドンの戦い」聖書の預言）『新月の光』下巻）。

ハルマゲドンとは『聖書』に書かれた世界最終戦争であり、その舞台の中心、少なくとも一方が日本であることを示します。『靈界物語』は皆、日本のこと、聖師によれば、太古は世

界が豊葦原瑞穂国、日本であつたわけです。また、型の仕組みを考えると、世界の地名が出ていても、それに対応する日本の地名があると考えます。

浮島の峰の「ねこ」

波切丸は万波洋々たる湖面を、西南を指して、船舷に鼓を打ちながら、いともゆるやかに進んでいる。天気清朗にして春の陽気漂い、あるいは白くあるいは黒くあるいは赤き翼を拡げた海鳥が、あるいは百羽、千羽と群をなし、怪しげな声を絞つて中空を翔けめぐり、あるいは波間に悠然として、浮きつ沈みつ、魚を漁っている。アンボイナは七八尺の大翼を拡げて一字に空中滑走をやっている。その長閑かさは天国の楽園に遊ぶの思いがあつた。

前方につき當つたハルの湖水第一の、岩のみを以て築かれた高山がある。国人はこの島山を称して浮島の峰と称へてゐる。一名夜光の岩山ともいふ。船は容赦もなくこの岩山の一漕海里・一八五メートルばかり手前まで進んで来た。船客は何れもこの岩島に向かつて、一斉に視線を投げ、この島に関する古来の伝説や由緒について、口々に批評を試みている。

浮島とは、湖や沼などに浮かんでいる、島のようなもの。泥炭や植物の枯死体などの集まりで、植物が生えている場合もある。小学館『デジタル大辞典』。

『靈界物語』の文脈からは、浮島とは根のない島、後文の文脈からは過去とは断絶した存在を示すと考えます。次に「猫」の意味が不明です。実は「ねこ」と



図二 孝霊天皇

は私見では天皇の尊称なのだ
と考えています。

第七代 孝霊天皇 大倭根子

日子太瓊尊命 オオヤマトネコ

ヒコフトニノミコト

第八代 孝元天皇 大倭根子

日子国玖琉命 オオヤマトネコ

ヒコクニクルノミコト

第九代 開化天皇 若倭根子

日子大毘々命 ワカヤマトネコ

ヒコオオビビノミコト

三省堂『大辞林』には「ねこ」

は尊称 天皇を敬つていう語

と記載されています。

浮島の怪猫とは、皇統の断絶



図三 孝元天皇

した「怪」しい天皇と見るこ
ができます。アンボイナは
信天翁あほうどりの祖先の大きな鳥を示し
ます。

「アンボイナ島は二つに分か
れ、雄島、雌島と称されてい
る。二つの滝があり、天国浄土
とも称すべき聖地である」(「
メラの滝」『靈界物語』二十四
巻七章)。

ここは竜宮城のような光景で
すね。東地ハルナの都とはエトナ(エ
トは江戸、ナは地)と同じく、東
京を示すのではないでしょう
か『靈界物語』二巻九章にある



図四 開化天皇

エトナの爆発とは関東大震災の
ことと聖師は示されています。

西風が激しく東遷、東京遷都か
第二章「思想の波」では「湖
中には無数の大小島が星のごと
くに配置され、各島嶼いづれも
パインの木が密生して世界一の
風景と称へられている」という
パインの木からパイン・松の生
い茂る日本が舞台であることが
わかります。松といえは……、
型の思想が頭をかすめます。

甲「皆さま、御覧なさい。前方
に雲を凌しのいで屹まじう立している、あ

の岩島は、ハルの湖第一の高山
で、いろいろの神秘を蔵してい
る霊山ですよ。昔は夜光の岩山
といって、岩の頂辺に日月のご
とき光が輝き、月のない夜の航
海には燈明台として尊重された
ものです。あのスツクと雲を抜

き出た山容の具合といい、全山
岩をもつて固められた金剛こんごう不壊
の容姿といい、万古不動の霊
山です。この湖水を渡る者は
この山を見なくつちや、湖水
を渡つたといふことはできな
いのです」

灯明台として尊重されたと
すれば、統治の中心、規範、道
しるべそのものを示すので
しょう。

乙「成るほど、見れば見るほど
立派な山ですな。しかしなが
ら、今でも夜になると、昔と同
じように光明を放っているの

すか」

「この湖水をハルの湖といふくらいですもの、暗がなかったのです。しかしながらだんだん

世の中が曇った所為か、年と共に光がうすらぎ、今ではほとんど光らなくなつたのです。そして湖水の中心に聳え立っていたのですが、いつの間によら、その中心から東へ移ってしまったということ。万古不動の岩山も根がないと見えて浮島らしく、あまり西風が烈しかったと見えて、チクチクと中心から東へ寄つたといふことです」

ハルの湖は日本ですので、その中心が京都から東、東京のほうに寄つたということがひとつの可能性として考えられます。平成二年（一九九〇年）、即位の礼、大嘗祭が、史上初めて関東の東京で行われたことを考え

ると、「いつの間にやら、その中心から東へ移ってしまったということ。す」という言葉は納得できます。

西風が激しかったとは、西風の風でしょうが、東京遷都の目的は、天皇すり替えを秘すための、華族制度はそのための口封じの制度なのか、わかりかねます。

「アケハルの岩」は、明治の岩「なるほど文化は東遷するとかいいますから、文化風が吹いたのでしよう。しかし日月星辰

いずれもみな西へ西へと移って行くのに、あの岩山に限って、東へ移るとは少し天地の道理に反しているじゃありませんか。浮草のように風に従つて浮動するような島ならば、何ほど岩で固めてあつても、何時沈没する

か知れませぬから、うっかり近寄ることはできませんまい」

「あの山の頂を御覧なさい。ほとんど枯死せむとするような、ひねくれた、ちっぼけな樹木が岩の空隙にわずかに命脈を保っているでしょう。山高きがゆえに尊からず、樹木あるをもつて尊しとす……とかいつて、なにほど高い山でも役に立たぬガラクタ岩で固められ、肝心の樹木がなくては、山の山たる資格はありませんまい。せめて燈明台にでもなりや、山としての価値も保てるでしょうが、大きな面積を占領して、何一つ芸能のない岩山ではサツパリ話になりませんまい。それも昔のように暗夜を照らし往來の船を守つて、安全に彼岸に達せしめる働きがあるのなら岩山も結構ですが、今日となつてはもはや無

用の長物ですな。昔はあの山の頂に特に目立って、仁王のこ

とく直立している大岩石を、アケハルの岩と称へ、国の守り神様として、国民が尊敬していたのです。それが今日となつては、少しも光がなく、おまけにその岩に、縦に大きなヒビが入つて、何時破壊するか分らないようになり、今は大黒岩と人が呼んでおります。世の中はこれを見て、このままでは続くものではないと見えます。天の神様は地に不思議を現はして世の推移をお示しになるといいますから、これから推考すれば、大黒主の天下も余り長くはありませんまいな」

「アケハル」とは、明治を示すのでしよう。アケハルの岩とは大きな面積を占領する明治の岩、正確に言えば、明治憲法、大

日本帝国憲法時代の日本の支配者を示すのではないでしょう。大きな面積とは、皇室財産でしょうか。そして「明治の岩」、国の守り神として国民が尊敬していたアケハルの岩はどのように変容したのか。ここに明治政府が見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿主義、バラモン教に陥っていく記録を示します。「縦に大きなヒビが入って」という表現も気になります。縦とは系統を示すのでしょうか。徳川幕府は、バラモン教と同様、三つ葉葵を紋としました。江戸城はそのバラモン教の象徴でしょう。江戸城の一部を明治の皇室も皇居としました。

梵天王の子孫とは
清照姫 大黒主様は壮健でいら
せられますか」

レーズヘーヘー、壮健も壮健、先の奥様が古くなったといつて、小つぽけな家を建てて隠居をさせ、その後へ天人のような若い女房をすえ、沢山な妾を困つて、朝から晩まで酒池肉林の乱痴気騒ぎ、誰も彼も眉を顰めておりますけれど、何を言つても沢山の軍隊を抱えている英雄豪傑、そして梵天王の御子孫といふので、何事をなさつても御意見上げる者もなし、鬼熊別様に比ぶれば、その信用の点においても、品行の点においても天地黑白の相違でございませう。『チームス峠』霊界物語』三十九巻十七章。

清照姫とは、イソ館から大黒主調伏に向かった三五教の先遣隊。神素護鳴尊の命から黄竜姫（小糸姫）が賜った名前です。バラモン教の副棟梁、鬼熊別・蝦

蛸姫夫婦の一粒種です。

大黒主は、明治の岩に君臨して日本を支配しています。当時の日本で沢山の妾を困つて、沢山の軍隊を抱えている英雄豪傑、梵天王の子孫とは誰を示すのでしょうか。梵天王とは、天王星から降り、北米常世国に出生し、大自在天、のちに常世神王と称します。天王星は天皇星、天皇制とも読めます。

天の大きな工匠の大鉄槌
「あの岩山には何か猛獣でも棲んでいるのでしょうか」
「妙な怪物が沢山棲息しているという事です。そしてその動物は足に水かきがあり、水上を自由自在に游泳したり、山を駆け登ることの速さといったら、まるきり、風船を飛翔したようなものだ……とのことです。昔

は日の神、月の神二柱が、天上より御降臨になり、八百万の神を集めて日月の如き光明を放ち、この湖水はもとより、印度の国一体を照臨し、妖邪の気を払い、天下万民を安息せしめ、神様の御神体として、国人がああ岩山を尊敬していたのですが、おいおいと世は澆季末法となり、何時しかその光明も光を失い、今や全く虎とも狼とも金毛九尾とも大蛇とも形容し難い怪物が棲息所となっているのです。それだから吾々人間が、その島に一步でも踏み入れようものなら、たちまち狂悪なる怪物の爪牙にかかって、血は吸はれ、肉は喰はれ骨は焼かれて亡びるといつて恐がり、誰も寄りつかないのです。風波が悪くつて、もしも船がああ岩島にブツかかるうものなら、それこ



図五 マッカーサー元帥と
天皇ヒロヒト

そ寂滅じやくめつ為樂いらく、再び生きて還かえる事はできないので、このころでは、ひそひそとあの島を悪魔島と言っています。しかし大きな声でそんなこと言おうものなら、怪物がその声を聞き付けて、どんなわざをするか分らぬといふことです。誰も彼も憚はばかって、大黒岩に関する話は口を閉じて安全無事を祈っているのです。あの島があるために、少し暴風の時は大変な大波を起し、小さい舟は何時も覆没ふくぼつの難に会うのですからなア。何とか

して、天の大きな工匠こうせうがやって来て大鉄槌てつづいを振り、打ち砕くだいて、吾々の安全を守ってくれる、大神将かみしやうが現はれそうなのですか」
「何と、権威のある岩山ぢやありませんか。つまりこの湖面に傲然ごうぜんと突つ立って、あらゆる島々を睥睨へいげんし、強持こわもてに持っているのですな」

「動物は足に水かきがあり、山を駆け上ることの速さは風船を飛翔したようなもの」、これは岩山に住む人たちの出世の速さ、身分の変化の速さを言うのでしょうか。「人間がその島に一步を踏み入れようなものなら」とは、その岩山の秘密を侵すおかということでしょうか。徹底した統制について歴史に照らし記述します。

「天の大きな工匠」とはフリーメーソン三十三階位のマツカーサー、大鉄槌とは原爆」を指す見方があります。

徹底した統制

明治元年 太政官布告「すべの出版、新聞が許可制に。」

明治二年【出版条例】行政非

難などの禁止、検印制定、みだりに教法を説き、人罪を誣告ぶごし、政務の機密を洩もし、あるいは誹謗ひぼうし、及び淫蕩いんたうを導く事を記載する者、軽重けいじゆうにしたがいて罪を科す」。

明治四年【新聞紙条例】匿名記事の禁止など。

明治八年 讒謗律ざんぼうりつ【ざんぼうりつ】(名譽毀損を制定)改正新聞紙条例【新聞発行の停止、差し押さえを可能に。厳罰採用。この二法により、完全な新聞取

り締めりが可能に。「巡查」を「巡さん」と書いただけで逮捕。
明治二十六年【出版法】書籍の内容による発禁、差し押さえ処分。

明治四十二年【新聞紙法】新聞・雑誌の内容による発禁、差し押さえ処分。

大正三年 海軍省、陸軍省が新聞記事掲載のガイドライン、検閲を発表。

大正十四年 治安維持法【左翼の取り締めり】。

昭和十三年【国家総動員法】あらゆる経済統制、言論統制
第二次大本教事件の訴因となる。「第二十条 政府ハ戦時ニ際シ国家総動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ為スコトヲ得」、

昭和十六年【新聞紙等掲載

制限令】官庁の秘密、軍機の掲載禁止などを規定（探検コム参照）。

明治政府の三猿主義

「あの岩山は時々大鳴動を起し、噴煙を吐き散らし、湖面を暗に包んでしまう事があるのですよ。その噴煙には一種の毒瓦斯が含有していますから、その煙に襲われた者はたちまち禿頭病になり、あるいは眼病を煩い、耳は聞こえなくなり、舌は動かなくなるといふ事です。そして吐のすくこと、咽喉の濁くこと、一通りじゃないそうです。そんな魔風に、おりあしく出会した者はいい災難ですよ」

「大鳴動を起し」とは、例えば第一次、第二次大本教事件を差すのでしょうか。

「丸つ切り蚰蜒か、蛇蝸のよう



図六 見猿、聞か猿、言わ猿

心より、湖上の大害物を取り除けてくださらぬのでしょうか。あつて益なく、なければ大変、自由自在の航海ができて便利なのに、世の中は、神様と言えど、ある程度までは自由にならないとみえますな」何事も時節の力ですよ。金輪奈落の地底からつき出ておったという、あの高の岩山が、わずかの風ぐらいに動揺して、東へ東へと流れ移るようになったのですから、も

な恐ろしい厭らしい岩山ですな。なぜ天地の神さまは人民を愛する

はやその根底はグラついているのでしよう。一つレコード破りの大地震でも勃発したら、手もなく、湖底に沈んでしまうでしょう。オ、アレアレ御覧なさい。頂上の夫婦岩が、何だか怪しく動き出したじゃありませんか」

「髪は神への架橋であるから、多くて長いのが結構である。相撲取でも髪が長くなければ九分九厘と言つ所で負けを取る。美術家などが髪を長くする事は誠に理由のある事で、これだければよい想は浮かんで来ない。インスピレーションと言つのは神からの内流である。頭髮だけは毛といわずしてカミと言つが神の毛の意味である」

「頭髮」

「神の国」。

禿頭病とは無意識に「神の毛」を抜いてしまう病気です。

神の教えを聞かなくなり、神から離れた人たちを示します。目、耳、舌の病気はバラモン教の「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿主義を示し飢餓を伴います。

千引の岩は黄泉比良坂の戦い、太平洋戦争の起る場所

「風も吹かないのに、千引の岩が自動するといふ道理もありますまい。舟が動くので岩が動くように見えるのでしょうか」

「ナニ、そうではありますまい。舟が動いて岩が動くように見えるのならば、浮島全部が動かねばなりませんまい。他に散在している大小無数の島々も、同じように動かねばなりませんまい。岩山の頂上に限つて動き出すのは、ヤツパリ船の動揺の作用でもなければ、変視幻視の作



図七 黄泉比良坂と千引の岩

用でもありませんまい。キツとこ
れは何かの前兆でしょうよ」
「そう承れば、いかにも動い
ております。あれあれ、そろそ
ろ夫婦岩が頂の方から下の方へ
向かつて歩き始めたじゃありませんか」

「なるほど妙だ。段々下つて
来るじゃありませんか。岩か
と思えば虎が這うているよう
に見え出してきたじゃありませんか」

せぬか」

「いかにも大虎ですワイ。ア
レアレ全山が動揺し出しまし
た。こいつア沈没でもしようも
のなら、それだけ水量がまさ
り、大波が起つて、吾々の船も
大変な影響をうけるでしょう。
危ない事になつて来たものでは
ワイ」

「千引の岩」とは神話の時代、
イザナギの命の妻のイザナミの
命が亡くなり、どうしてもいい
イザナミの命に会いたくなつたイ
ザナギの命は黄泉の国へ、妻に
会いにでかけていくわけです
が、亡くなつた妻を連れ帰るま
で「妻を見てはいけません」とい
う約束を忘れたことから、亡者
や亡者となつた妻に追われ、地
上(この世)に帰ってくるとい
う話であり、その際、亡者や死
んだ妻から逃れるため、イザナ

ギの命が道をふさぐと使つた
のが黄泉比良坂にあつた大岩で
した。千人かかつても動かせそ
うにない大きな岩であることか
ら「千引の岩」と命名されまし
た。その岩を中にしてイザナミ
は、あなたが約束を破つてこん
な目にあわされたから、もう私
はあなたの国へは還らない」と
言われました。

イザナミは、あなたがこんな
ことをしたからには、これから
後、あなたの国の人間を毎日千
人ずつ殺す」といわれた。イザ
ナギは、お前がそんなことをす
るなら私は毎日千五百の産屋を
たててみせる」と仰せられた。
千引の岩は、黄泉比良坂の戦い
の起こる場所です。そして黄泉
比良坂の戦いとは現今では太平
洋戦争を示します。

「今の太平洋の戦は、黄泉比

良坂の戦いである。南洋の島は
陥没した黄泉島の高いところで
ある」(昭和十九年四月九日)
「黄泉比良坂の戦」『新月の光』
下巻)。

今は『古事記』の「黄泉比
良坂」の段)伊邪那岐命が十拳
の剣を抜きて後手にふきつつ
逃げてこられるところだ(昭
和十九年四月九日)(「伊邪那
岐命の敗走」『新月の光』下
巻)。

レコード破りの大地震とは、
関東大震災でしょうか、太平
洋戦争でしょうか。この章の
口述された日は、大正十三年
十二月二日(新十二月二十七
日)であり、関東大震災の発生
は、大正十二年九月一日です。
関東大震災以降、日本政府が
戦争に突入していったのは真
実でしょう。

人類文明の発祥はム大陸か？

去る頃の大阪毎日新聞に、イギリス人チャーチ・ワード氏の長年の研究によって最近驚くべき大太平洋の秘密が白日にさらけ出された。それは人類文明の発祥地は大太平洋の真中で、「ム」と名づける大きな大陸が横わっていたが、今から一万三千年前、六千四百万人の生命を載せたまま噴火と津波のため海底に陥没してしまった。そしてここから伝播したのがインドの、エチプトの、マヤの、インカの文明である。……中略……ム大陸は東西五千マイル、南北三千マイル、ハワイ島が北方の、タヒチ島、マインガイア島あたりが南方の、イースター島は東方の、ラドロン島は西方の残骸なのである。……下略……とあるのは『霊界物語』中に示された黄泉

島の事である。

第九卷総説歌に、

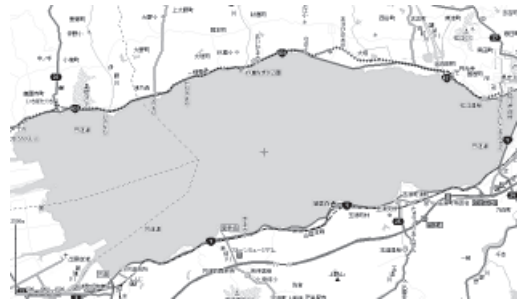
―前略―大太平洋の真中に 縦が二千と七百哩 横が三千一百哩 黄泉の島や竜宮城―下略―とあるのがそれである。

又第十二卷、航空船」といふ章には沈没の有様が書かれてある『ム』大陸は黄泉島 玉鏡』。

ム大陸の北方はハワイであり、ハワイこそ黄泉比良坂の黄泉島よもつ（の一部）なのです。ハワイは、松江の宍道湖に相應するのでしょうか、真珠湾があります。

「キツとこれは何かの前兆でしょうよ」とは、文脈で見れば、黄泉比良坂の戦いに続く大日本帝国の崩壊、天皇の人間宣言に結びつくものでしょうか。

梵天王の子孫とは大室寅之祐？



図八 宍道湖

「いかにも大虎ですワイ。アレレ全山が動揺し出しました」の「大虎」は、南朝の流れを組むとされる「大室寅之祐」と見るのが自然な流れでしょう。それならば、梵天王の子孫とは「大虎」の可能性が高いと思います。但し太平洋戦争である黄泉比良坂の戦いの時は、大室寅之祐は故人となっており、



図九 真珠湾 パールハーバー

大室寅之祐に象徴される大日本帝国の統治者と考えました。

頬に吸いついた蚊を

一匹叩き殺す

かく話す内、波切丸は浮島の岩山の間に進んだ。島の周囲は何となく波が高い。虎と見えた岩の変化は磯端に下つて来た。よくよく見れば牛のような虎猫である。虎猫は波切丸を目をいからして睨みながら、逃げ

るが如く湖面を渡つて夫婦連れ、西方指して浮きつ沈みつ逃げて行く。にわかには浮島は鳴動をはじめ、前後左右に全山は揺れて来た。チクリチクリと山の量は小さくなり低くなり、半時ばかりの内に水面にその影を没してしまつた。あまり沈没の仕方が漸進的であつたので、恐ろしき荒波も立たず、波切丸を前後左右に動揺するくらいですんだ。一同の船客はこの光景を眺めて、何れも顔色青ざめ、「不思議不思議」と連呼するのみであつた。

世界的大戦争の勃発

この時船底に横臥してゐた梅公宣伝使は、船の少しく動揺せしに目を醒まし、ヒヨロリヒヨロリと甲板に上つて来た。さしに有名な大高の岩山は跡形も

なく水泡と消えていた。そして船客が口々に陥没の記念所を話している。梅公は船客の一人に向かつて、「風もないのに、大変な波ですな。どつかの島が沈没したのじゃありませんか」

甲「ハイ、あなた、あの大変事を御覧にならなかつたのですか。ずいぶん見物でしたよ。昔から日月の如く光つていた頂上の夫婦岩はにわかには揺るぎ出し、終いの果てには大きな虎となり、磯端へ下つて来た時分には猫となり、波の間を浮きつ沈みつ、西の方へ逃げ行つたと思えば、チクリチクリと島が沈み出し、とうとうなくなつてしまいました。こんな事は昔から見た事はありません。コリヤ何かの天のお知らせでしょうか」

梅「どうも不思議ですな。しかしながら人間から見れば大変な事なのですが、宇宙万有を創造したもうた神様の御目から見れば、吾々が頬に吸いついた蚊を一匹叩き殺すようなものでしょう。しかしながら吾々はいれを見て、自ら戒め、悟らねばなりません」

乙「あなたは何教かの宣伝使様のようですが、一体全体この世の中は何うなるでしょうか。吾々は不安でたまらないのです。つい一時間前まで泰然として湖中に聳えていた、あの岩山がもろくも湖底に沈没するといふような不祥な世の中ですからなア」

梅「……まだまだ世の中は、これくらいな不思議では治まりませぬよ。ここ二十年以内には、世界的、又々大戦争が勃発するで

しょう。今日ウラル教とバラモン教との戦争が始まらんとしておりますが、こんなことはホンの兒戯に等しきもので、世界の将来は、実に戦慄すべき大禍が横たわつております。……」

ここで「今日ウラル教とバラモン教との戦争が始まらんとしており」という言葉が氣になります。それはどこの国とどこの国との戦いなのか解析してみます。

「常世の国はウラル教の教を以て国是となす。万民これに悦服し、その神徳を讚美渴仰す」(「鬼鼻団子」『靈界物語』十卷四章)。

「一、本巻は南米(高砂島)より、北米(常世国)にわたる三教宣伝隊の宣伝状況を口述されましたもので……」(「凡例」

『靈界物語』九卷二章)。



四十 米国旗（星条旗）

弥「……
随分見つ
ともよく
ない常世
姫の寝
姿、一目
見るより
ゾツとし

た。それに又、星の紋のついた
水色の羽織を着た中婆の嫌らし
い顔つたら、今思つても身体中
がゾクゾクするやうですワ」

（『丸木橋』『靈界物語』十四卷十
五章）。

婆「ほしいワほしいワ、欲しい
印に星の紋がつけてあるのも知
らぬかい。星の紋は米の紋じゃ
ぞ。それが欲しいばっかりに夜
屋なしにやきやきしているの
ぢや。」

ウラル教は、常世の国の国是
であり、常世国は北米を指しま

す。常世姫は、悪魔に魅せられウ
ラル教を建設し、盤古神王を主
の神として世界を開きますが、
その常世姫が「星の紋のついた
水色の羽織を着る」。そして星の
紋は米の紋。星の紋は米米国の
紋。そして米国は型としては八
木に当たります。

ここでは、バラモン教と米國
との戦い、世界との戦いがここ
十年以内に起こると預言してい
ます。

この浮島の怪猫が口述された
日は、大正十三年（一九二四年）
旧十二月二日、新では十二月二
十七日となります。天運循環し
た六十年に一度の甲子の年です。
ほぼ十年後の昭和十年（一九
三五年）に日本とアメリカの戦
いの型、黄泉比良坂の戦いの型
となる第二次大本教事件が起り
ます。大本が日本の型、政府が

アメリカの型を演じて大本を弾
圧するわけです。

先般、大黒主の象徴として、大
室寅之佑を想定し、「何を言つて
も沢山の軍隊を抱へている英雄
豪傑、そして梵天王の御子孫」と
記載しました。梵天王は、天王星
から降り、北米、常世国に出生
し、自在在天、のちに常世神王と
称します。ゆえに、政府、皇室、
あるいは天皇（天王）が、型の思
想」では、日本と戦う北米、米國
の立場となります。梵天王の子
孫がその統治者であることは、
理にかなうものとなります。一
方のバラモン教とは日本を指す
と考えます。徳川幕府は三つ葉
葵の紋所であり、同じ紋をバラ
モン教の神紋とし、三猿主義を
引き継ぐ明治政府は、まさしく
バラモン教的性格を帯びるもの
となります。

ここで、ウラル教とバラモン
教との戦いとは、米國と日本の
戦いであり、それが世界大戦に
発展することがわかります。こ
の日米の戦いの型は、昭和十年
十二月八日に起こった第二次大
本教事件でした。大本教は三五
教であつたけれども、邪神系の
眷属が侵入しており、神からみ
れば、立替立直しが必須だつた
のでしよう。その六年後の昭和
十六年十二月八日に太平洋戦争
が勃発します。

ハルの湖は日本のどこか、ア
ケハルの岩とはどこにあるの
か、謎は深まります。そして三
段の型とは、孝明天皇の遺勅と
の関連は？

多くの未解明なことがありま
す。さらに研鑽しますので、次
号以下をお待ちください。